
何かが違う男

零条シズク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

何かが違う男

【Nコード】

N1904U

【作者名】

零条シズク

【あらすじ】

ネギまのセカイに男が神によって無理やりトリップさせられた物語です。なんだか最初主人公壊れてますが勘弁してください仕様ですから、最初だけですから、それも無理な人は戻ってください。

プロローグ1（前書き）

零：2作目です。なんか主人公が最初壊れてます。治りますかね？

プロローグ1

ある国に一人の男がいた。

その男は周りの皆と『何か』が違っていた。

運動能力は中の上、勉強だって上の中、少し真面目なやつだったらこのくらいは普通に取れそうなものだ。

しかし周りの人間は皆『彼』を見ながらこういった。

『来るな』『近寄るな』『化け物』『異常』

周りからそんなことを言われても男はただ心の中で、『俺は普通だ！普通の人間だ！』と思い続けた。

しかしある日彼の心の叫びは終わりを告げた。

ある日家庭科の授業をしていた時、男はすっかり包丁で手を切ってしまった。

生徒に気を配っていたのか担当の教師は「大丈夫？」といいながら男に近寄っていった。

男は「大丈夫。」とこたえながら出血していた手を見せた。

手を見た担当教師は顔を青くしながら「ば、化け物！」と言った。

元より周りからそう呼ばれていた男が大声でそんなことを叫ばれたのだ。

周りの人間も何かあったのかと思い近寄ってきていた。

男も教師のその反応がよくわからなかったのだろう、自分で見せた手を見てみた、すると。

血がほとんど出ていなかった、むしろ「ジュース！」と煙を上げながら傷口が治っていた。

周りの人間は完全に男に恐怖した。

「近寄るな化け物！」

「化け物が俺たちと同じところにいるんじゃないよ！」

などと蔑まれた。

その言葉を聴いて心の中で何かが崩れる音が聞こえた。
その瞬間から男は完全に壊れてしまったのだ。

男はすぐさま学校の屋上に向かった。

——— こんなところに俺はいちやあいけない

男は自分がこの世界にとつて完全に必要のないものだと思った。

だからといって周りの人間に危害を加えてはいけない。

完全に壊れながらも残った善心で男はこの世界から去ることを決めた。

男は屋上の手すりに足をかけながら

「今度はまともな『生』を受けられますように。」
と願った。

そして男は屋上から飛び降りた。

プロローグ2（前書き）

ここより先は男の一人称になります

プロローグ2

・・・おかしい。

俺は屋上から飛び降りたはずだ。

なのに何故一向に地上に着かない？

眼を閉じていた俺はそつと眼を開けた。

目の前はただ真つ暗な世界だった。

本当に何も無い世界音も光も影もない、この世界にあるのは自分だけ、そう思える世界。

「なんだ、ここは・・・。」

「ここは生と死の境界じゃよ。」

「ッ!？」

後ろから突然声が聞こえた、振り返ってみるがそこには何もいない。

「こつちじゃよ。」

また声のほうを向くとすげー髪と髭の伸びた爺さんがいた。
なんだこいつ・・・。

「わし神。」

「へえゝつてあれ？」

今こいつなんて？

「だからわし神だつて。」

「そんな・・・あんたが。」

俺は驚きながら爺さんのほうに近づき

「そうそう、わしこそが偉大な神じゃ。」

爺さんの肩をつかんで、

「爺さん、病院に行つて来い。」

冷静に対処した。

いやだつて神様とかいるわけねえだろ？

普通の対処だつて普通の。

「『異常』と呼ばれて追つたお前さんが何を言うか。」

「ッ!？」

いまこいつ俺の心を、

「そりゃあ読めるよわし神じゃもん。」

それでいいのか・・・？

「それでその神様が何のようだ？」

俺は神と対面するような偉い人間ではない。

「・・・やけにあっさり、ま、まあいいわい、実はのう、お前さん死のうとしたじゃろ？」

「ああ。」

うなずく俺、事実だしな。

「やけに普通に返事するのう？まあもういいわい、それで何じゃがのうおぬしが死んだ理由、それはおぬしの体のことじゃろう？」

「ああ。」

神であるこいつだったならそれぐらい知っているはずだ、・・・うん？神？ってことは・・・。

「俺をこうしたのってお前？」

俺は神を指差しながらいう。

「お前って、もう少し礼儀とかさあゝ、まあわしじゃけどおゝ。」

なんか少し神爺がぐれてる。

でもそんなことは関係ない、そんなことよりも知りたいことがある。

「何で俺の体をあんなことに・・・？」

「面白そうおじやったから。」

なん・・・だと？

即答の上理由が面白そうだったから？

ふざけんなよ？

「お前のせいで俺がどうなったかわかってんのか!？」

「うん、しつとるよ？」

「ならなんであんなことをした!？」

「だからおもゝ「そんなことじゃねえんだよ!？そういう意味じゃねえんだよ!？」じゃあ何じゃ?」

神爺が当たり前のように言ってくるとなんだか腹が立つが同時に頭も冷えてきた。

「俺、どうすればいいんだよ？」

「わしの趣味に付き合ってみん？」

「・・・っは？趣味？なんだそれ？」

「いや、最近わしら神の中で『異世界トリップ』ってのがはやっておるんじやが付き合ってくれんか？」

「・・・普通そんなこと死んだ人間に頼むか？」

「うん。」

だから心読むんじやねえよ！

「・・・まあいいやそのほうがしゃべらなくて楽だし。んで、どんな世界なんだ？」

「なんか無理やり納得した感があるが、まあいいじやろ。場所は『ネギま』のせかいじや」

「なにそれ？」

思わず声が出た。

「知らんの！？マジで！？出もまあそのほうが面白そうだからいつか。」

なんか一人で叫んで一人で納得してるよ・・・憐れ。

「じゃあ飛ばすぞ？」

早ッいくらなんでも早すぎじゃね？

「気にするでない・・・そうそう、おぬしむこうについたらチートになつとるじやろうから。」

「・・・なんで？」

「どうでもいい世界でそんな力もつとるやつが魔法のある世界で何も無い分けないじやろ？」

その前に魔法がある世界に行くことに驚きだよ・・・。

「ということであつとやそつとじゃ死なないからがんばってくれ。」

「わかったわかったいきやいいんだろ？」

「うむ！」
すげえ笑顔だよ・・・。
なんか足元光りだしたし。
なんかとにかくまぶしいし。
なんか正直気持ち悪いし。
何より、

あの爺のしてやったりって顔がすげえむかついた。

主人公説明

名前 あまつきてるよみ
天月照詠

性別 『男』

身長 176 cm 体重 58 kg

誕生日 不明

年齢 18歳

髪色 元々は紫がかった青色だったが一度死んだからは銀色っぽい白色になった。

髪型 髪の毛腰の長さまでであり外に出しているとうっとうしいので上着の下に入れていますが、戦闘中には外に出す。

体格 無駄な肉がなくすらっとしているスレンダーな感じになっている。

眼色 深みがかった青

性格 基本的に気に入った人間以外は無関心、気に入った人間はとことんかわる感じ

落下中

やあみんな！天月照詠だよ！

・・・・・・・・すまん、なんか変な感じになっとな。

実際俺が何でこんな変なテンションで切り出したか説明しよう。

それは全て、あの神爺のせいだ！

あの爺が何したっけ？ああ、今までの文にはかかれてないから少し前の話をしよう。

数分前・・・・・・・・

神爺によつてなんか漫画の世界に連れてかれた俺。

最初はまぶしかつたが光が収まるとやけに下から衝撃が来る。

なんか変だと思ひ下を見てみると………もれなく空にいました。

……おかしくね？

あの爺の娯楽で俺この世界に送られたんだよ？なのにこれっておかしくね？

そんな愚痴をこぼしていると俺の目の前に神……じゃなくて紙がでてきた。

なにになに？『いやゝすまん！そっちの世界に送ろうとしたら座標間違えてものすごい上空に設置してしまつたぞい！』……「ふざけんなあ！！」

思わず声が出るくらいに俺はぶちぎれた。

どうすんだよ！俺、このまま死ぬの？潰れるの？まあ一度そうなたしなれてんじゃね？って思つてるやつに言つてやるよ、いてえもんはいてえんだよ！

まったく……そういえば神爺がなんか俺に力くれてたな、少し試してみるか。

えっと、この世界は魔法があるから……風の魔法か……えっと……どうしよう？

あの爺！魔法の使い方、何も言つてねえよ！

とりあえず適当になんかしてみよ……。

……ついでに思つたんだけどこれ勢いが半端ないんだけど、もう風がどうこうとかじゃないんだけど！

風が無理ならどうするの？ツて思つてたらまた紙が出てきた。

えっと『風が無理なら翼を出せばいいじゃない！by神』だからそのやり方がわかんねえつてんだろぅが！

あつもう一枚なんか紙出てきた、『適当にやれば出るよだつてお前

だし。b y 神』・・・。

もういいかげんだな、まあいいや適当にやってみよ。

つばさねえ、どんなのがいいかな？・・・まずい、イメージがつかめない。

白い翼、白い翼、なんでもいいから白い翼っと。

なんか背中がもそもそすんだけど。

なんかすぐくもそもそすんだけど。

ために背中見てみたら真っ白な翼あんだけど!?

・・・ほんとに適当にやったら出たよ、もうどうとでもなれだな。
まあそんなことやってるうちにさ。

すぐ下、地面なんだよね

落下中（後書き）

感想、コメント待ってまーす。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1904u/>

何かが違う男

2011年10月8日23時25分発行